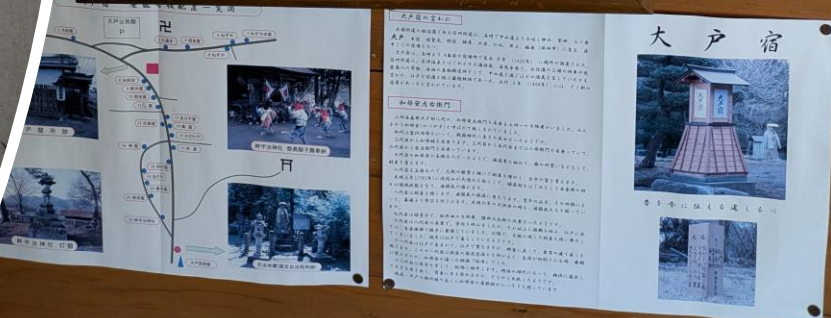
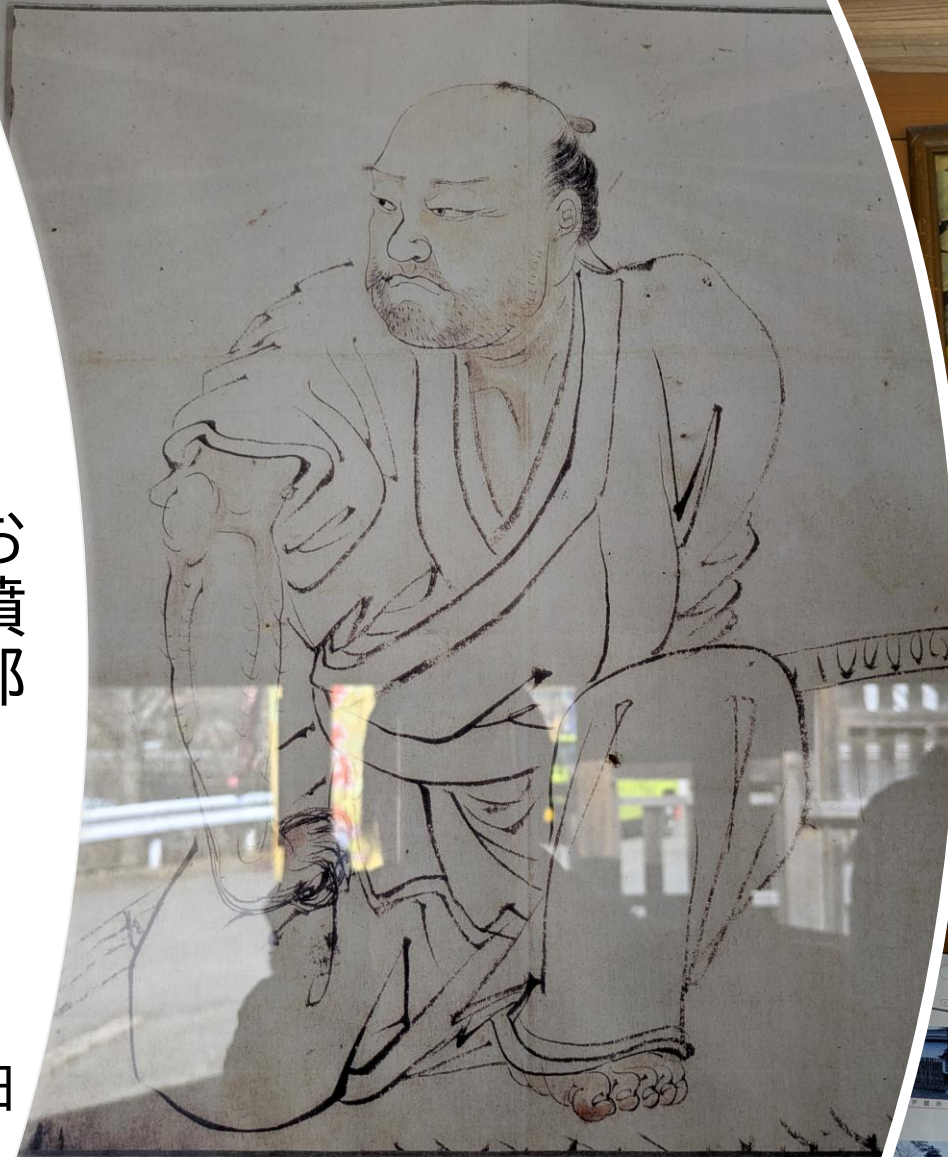


国定忠治と 加部安

「赤城の山も今宵限り・・・」の名セリフでおなじみの忠治と天明大噴火の救済に活躍した加部安氏がつながりました

内田陽子 2026年3月1日

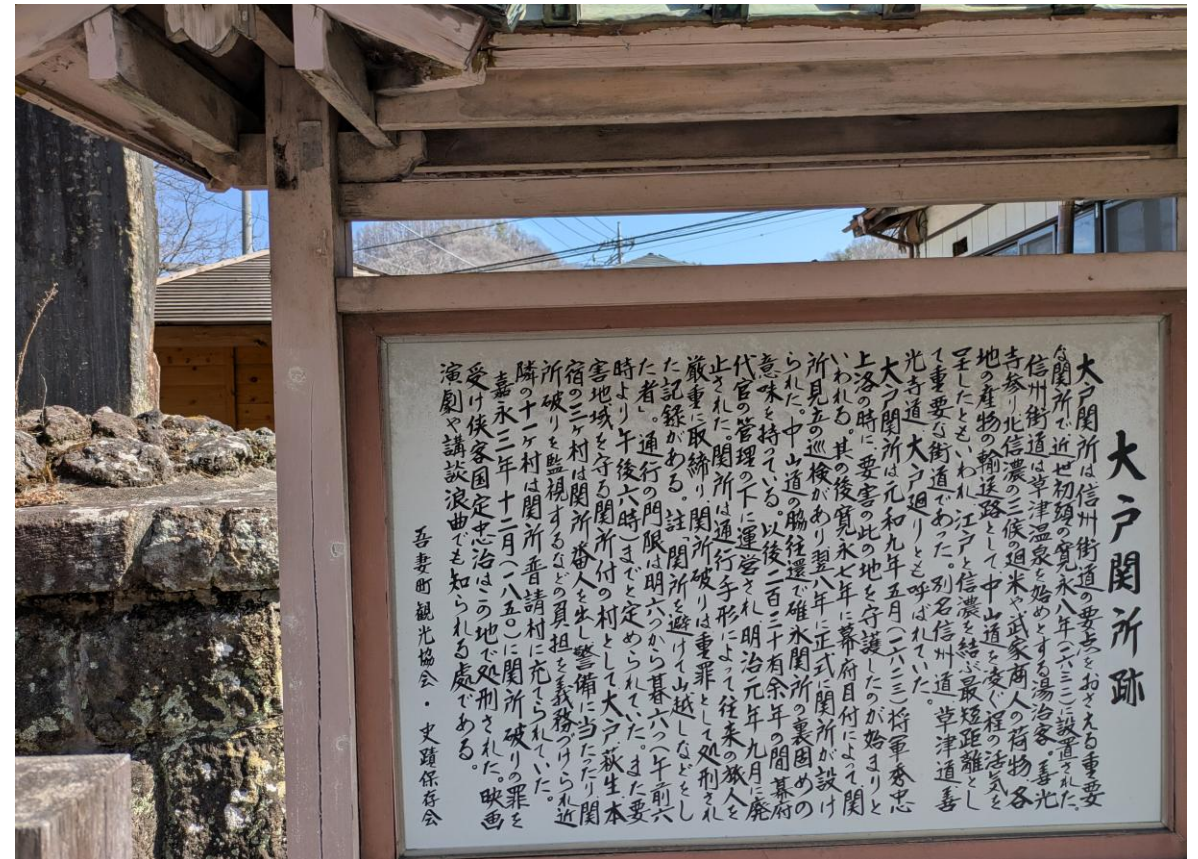
写真は江戸の関所付近で内田が撮影



国定忠治像 (田崎草
栃木県指定)
片膝をつき、たくましい右腕の袖をまく
正視する国定忠治の肖像である。周囲を構
も退かない気合と厳しさが感じられる。
の繊細な一面もみられる。梅沢時代の
絵に描いたもので、忠治に関する伝説

大戸の関所は主要街道の要 国定忠治は関所破りの重罪で処刑される

写真：内田撮影





加部安の時計

～天明の祈り～

明三年（1783年）、浅間山が大噴火した。
の際、地域を救った地元の豪商「七代目加部安左衛門」と
わかれた住民たちを描いたオリジナルストーリーです。

馬場東吾妻で実際にあったお話を紙芝居仕立ての映像にいたしました！
YouTube で見る事ができます！



YouTube で『加部安』と検索！
もしくは右の QR コードから YouTube へ GO!
アドレス <https://youtu.be/4WgusnLfaQU>



原作／加部鈴子 制作総指揮／井上日出美 キャラクターデザイン 作画／樹木の森ゆきえこ

大戸の関所跡の近くに加部安左衛門の屋敷

天明3年浅間山大噴火で私財を投げ出して住民を救済
そのストーリー動画も公開されている 写真：内田撮影

国定忠治と加部安の関係

- 1850年忠治が処刑される際、彼は酒造業もしていた加部安が造った「牡丹」を堪能した
- 加部安は関所を監視していたかもしれないが、11代当主は忠治の理解者だったとの言い伝えもある



関所の近くに忠治が処刑された跡があり、忠治地蔵が建立されている
写真：内田撮影





義理人情のために関所破りの前に立ち寄った 「忠治とまどいの松」

忠治は最期を覚悟して、どんな気持であっただろうか 地蔵の側には忠治の子分12衆の石碑あり
写真：内田撮影